

ご 換 拶

宮城県重症心身障害児(者)を守る会

会 長 秋 元 俊 通

本日は、多くのご来賓の皆様をお迎えいたし、平成19年度の通常会を開催できますことと、併せて、皆様のご支援とご協力によって、平成18年度も実りある活動を展開できましたことに、まず以って感謝申し上げます。本日は土曜日ですので、ご来賓の皆様にはお休みにも拘らずお運びいただき重ねて感謝申し上げます。会員が一人でも多くこの総会に出席できるよう模索いたしておりその一環として、本日の開催となりましたことをお断り申し上げます。

さて、昨年度は、障害者自立支援法の実施初年度で、その対応に追われた1年でした。利用者の負担が大きくなったために、地方自治体によっては独自の激変緩和措置を出さざるを得なくなり、また、12月にはとうとう厚生労働省自体からも「平成19年度の特別対策」を打ち出され、これによって、今年度は原則1割負担の福祉サービスの利用負担金が約1/4に緩和されました。

障害者自立支援法の実施によって、特に、「市町村間の格差」をまざまざと実感させられ、担当者の無理解、社会資源の偏在、サービスの不公平、利用負担金の増額や不公平、利用量の制限というような問題を認識させられました。このため、当会としてもいろいろな研究や研修を重ね、役員等が手分けして、県下全市町村の「激変緩和策や地域支援事業についての調査」を行い、皆様に直接資料を送付し、併せてホームページでもお知らせいたしました。市町村担当者の無理解につきましては、今まで重症心身障害児・者は県の児童相談所が窓口でしたが、昨年からは重症心身障害児施設以外は市町村が窓口になったことも原因の一つですし、市町村の大合併もあいまって小さな町では1人か2人しかいなかった重症心身障害児・者の数が多くなったわけですから、いたずらに担当者の責任とばかりは申し上げられません。私たちが、重症心身障害児・者を理解していただけるよう多くの皆様に共感をいただきながら、理解の輪を広げていく運動を行っていかねばならないものと考えます。

昨年度は、沖縄での「全国大会」や山形県天童市での「東北ブロック大会」に多くの皆様のご参加を得て、当面の諸問題の研修をしてまいりました。更に、秋田支部で主催した「重症心身障害児(者)の兄弟姉妹支援等事業」にもご協力いただき、障害児・者を取巻く兄弟姉妹の現状とその支援の重要さを再認識いたしました。NPO 法人宮城県重症心身障害児(者)を支援する会様には、資金面での援助だけではなく、「親亡き後の面会ボランティア制度シンポジウムを」を開催していただき、この制度の必要性を身近な問題として再認識させていただきました。このシンポジウムでは、面会ボランティアを実施されている岩手県支部の淵上支部長様のご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

当会の昨年度の重点地区を気仙沼福祉圏域とし、「夏の療育キャンプ」と「地域交流懇談会」を同圏域で開催し、一応の成果を上げることができました。こ

こは、全国的に少ない事例ですが、重症心身障害児(者)通園施設B型が実施1年で閉鎖された地区でもあり、復活が熱望されてもおりました。

また、昨年度から活動を開始した「母親部会」では、情報交換の場としての茶話会を開催していただき、今後も各地で気軽に話せるお母様方の連絡網作りを進めてまいります。

更に、国立病院との契約の関係で「成年後見」が必要となりましたので、これを受けて障害者の人権を守るための「成年後見制度」の研修をいたしました。

この他、事業計画以上の活動を実施できましたことを、皆様からのご協力の賜物として深く感謝いたすとともに、ご報告申し上げます。

今年度は、障害者自立支援法の諸問題の掘り起こしをいたし、昨年度に引き続き同法への対応を検討し、特に地域間格差の大きい在宅児・者の研修を行い、市町村間の格差の解消や地域を越えた社会資源の共用について各方面に働きかけてまいります。

また、国立病院に入所の皆様の多くは成年後見開始の審判を受けられ、しかも親族が成年後見人に就任されたと存じますが、本年は、「後見事務」報告の最初の年となります。成年後見人に就任されたことで全精力を使い果たした方も多く見受けられますが、病院と契約をするためだけに成年後見人となったわけではなく、重症心身障害者の人権を守るために就任したことを自覚していただきたいと存じます。これからが本番です。この後見事務について研修を行います。

恒例の行事といたしましたは、後ほど事業計画でご審議いただきますが、今年度の重点地区を仙台都市(南)圏域の名取市・岩沼市・亘理町・山元町及びその周辺といたし、各自治体や社会福祉協議会への訪問を行い、「地域交流懇談会」の開催等の事業によって、重症心身障害児・者への理解の輪を広げてまいります。

更に、NPO 法人宮城県重症心身障害児(者)を支援する会と連絡を密にし、その実施事業であります「一番町ホッとステーション」の活動支援及び明日開催されます「とっておきの音楽祭」への参加等の連携事業を実施してまいります。

今後の研究課題といたしましては、「重症心身障害者の地域生活の可能性とその実現の研究」として、手始めに「未就学重症心身障害児・就学重症心身障害児の諸問題」を、そして安全安心の地域生活のために必要な「地域医療体制」の確立、「医療ケアのあるショートステイ」の適正配置、親亡き後の「面会ボランティア制度」、岩手県・山形県に続く「就学猶予・就学免除の重症心身障害者への義務教育の実施」など、山積みですが、それぞれに研究班を編成して研究・活動してまいります。

今後共の、ご理解、ご指導、ご支援をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

(平成19年6月2日 定期総会にて)